令和元年度第２回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
資料評価部会（美術部会）

令和２年２月４日（火）

東京都江戸東京博物館　２階会議室

午後２時56分開会

矢中文化施設担当課長代理：それでは、定刻より前ですけれども、皆様おそろいですので、会議のほうを開始したいと思います。よろしくお願いいたします。

本日は、お忙しい中、御出席いただきまして、ありがとうございました。

ただいまから、令和元年度第２回「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会　資料評価部会（美術部会）」を開催いたします。

私は、東京都生活文化局文化振興部で文化施設担当の課長代理をしております矢中と申します。本日、課長に代わりまして、司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

資料収蔵委員会には、収集部会、評価部会がございます。収集部会は、江戸東京博物館の収蔵品としてふさわしいか否かを御審議いただく会、また、評価部会は、江戸東京博物館の収蔵品としての価格を個別の委員の皆様に御評価いただく会となっております。

なお、収集部会のほうを既に開催しておりまして、本日、当部会にお諮りする案件につきましては、収蔵するのが適切であるという御意見をいただいているところです。

本日の評価部会は、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい適正な価格評価をよろしくお願いいたします。

まず初めに、東京都江戸東京博物館副館長小林から御挨拶を申し上げます。

小林副館長：小林です。本日はお忙しいところ、どうもお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

年々、当館のコレクションも充実してきておりまして、今日、お諮りするものは、後ほど資料の説明がございますが、いずれも当館には欠かせぬものということで、よろしく御審議のほど、お願い申し上げます。

矢中文化施設担当課長代理：続きまして、本日御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきます。

私から向かって左手の席から順に御紹介をさせていただきます。

黒田委員でございます。

田辺委員でございます。

内藤委員でございます。

浅野委員でございます。

日野原委員でございます。

続きまして、事務局職員を御紹介させていただきます。

東京都江戸東京博物館事業企画課長の飯塚でございます。

それでは、これから議事に入りたいと思いますが、先立ちまして、当部会の公開について御説明申し上げます。当部会は「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」第12の規定により、原則公開となっております。

そのため、委員皆様のお名前と現職名は東京都のホームページ上にて公開しております。

一方、当部会における評価対象資料の価格評価に関する議事につきましては、同要綱第12の第１項（１）の規定により、非公開となっております。

なお、当部会の議事録につきましては、同要綱第12の第２項の規定により、資料収集が決定した後、公開を予定しております。公開に当たりましては、事前に委員の皆様に確認をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

同要綱第12の第２項（１）により、委員の皆様個別の価格評価の内容については、非公開となります。

公開についての御説明は以上です。

それでは、飯塚課長から配付資料の確認並びに本日御評価いただく資料の説明をお願いいたします。

飯塚事業企画課長：それでは、説明の前に、お手元の資料の確認をお願いいたします。

まず、一番上に会議次第がございます。

次に、A4の委員名簿がございます。

続いて、A4の「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」が２枚ございます。

続いて、A4の「令和元年度第２回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）説明資料」がございます。

続いて、A3の「令和元年度、第２回資料収蔵委員会資料（資料評価部会 美術部会）」が２枚ございます。

最後に、A3の「令和元年度第２回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）評価表」が１枚ございます。

なお、お配りしました名簿の肩書きなどに誤りがございましたら、恐れ入りますが、後ほど事務局へ御連絡いただければと存じます。

また、お手元にお配りしました資料につきましては、現時点では未公開の情報が含まれておりますので、会議終了後、回収させていただきたく存じます。

それでは、今回、御評価いただく資料について説明いたします。

A4の「令和元年度第２回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）説明資料」を御覧ください。

評価対象は２件でございます。

まず≪１．狂月坊≫喜多川歌麿画、寛政元年（1789）の作でございます。

書名は狂歌師の祖とされる歌人、暁月坊（冷泉為守）にちなむものと考定されています。

狂歌師紀定丸（1760－1841）が選んだ、月を詠んだ狂歌72首と、喜多川歌麿（1753年ごろ－1806）が描いた望月を主題とした５図からなる彩色摺絵入狂歌本です。

歌麿の確かな画力と、空摺などの高度な技術を注いだ版元の蔦屋重三郎（1750－1797）の意欲を感じ取ることができます。

紺紙に金霞を引き、金泥で若松の下絵を書いた原表紙で「狂月坊」の刷題箋を中央に付しています。折帖装で、全十丁完揃いです。

諸本の間で、狂歌・挿絵の順序に異同のあることが知られていますが、本書は自序に次ぎ各図見開きで、明石の月、山野の月、吉原の月見、田鄙の月、月宮殿の５図、狂歌は３丁半に72首を収め、刊記を配しています。

題箋が「狂月坊」となっており、刷りもよいことから、初版本と考えられます。

なお、後刷本の題箋は「狂月望」とされます。後刷本はもとより、初版本が近年市場に出ることは極めてまれです。

歌麿が単独で挿画した彩色摺絵入狂歌本は７種類あります。虫・貝・鳥の三部作「画本虫撰」「潮干のつと」「百千鳥狂歌合」と、雪・月・花を主題にした三部作「銀世界」「狂月坊」「普賢像」と、正月風俗を取り上げた「和歌夷」です。

当館では「画本虫撰」「銀世界」「和歌夷」の３種類を所蔵しています。本書を加えることで４種類になり、コレクションの充実を図ることができると考えております。

常設展示「出版と情報」「江戸の美」「芝居と遊里」コーナーを初め、浮世絵や狂歌に関する展示で活用可能な貴重な版本です。

続きまして≪２．大日本金龍山之図≫亜欧堂田善画、文化年間の作です。

江戸後期を代表する洋風画家・亜欧堂田善（1748－1822）による腐食銅版画です。

本図は、江戸の風景を扱った銅版江戸名所シリーズで、現在のところ40種類以上の作例が知られており、そのうちの最大の大きさのものです。

画面左上部の款記には「大日本金龍山之圖　亜欧」とあります。金龍山浅草寺のにぎわいを描いた本図は、本堂の欄干の上まで人物がぎっしりと描き込まれています。的確な描線で描かれた密度の高い構成の画面となっており、遠近法の消失点を定めて安定感のある構図を取っています。人物や建物にも丁寧に陰影の表現がなされていて、田善の円熟した技量をよく表しています。

銅版江戸名所図には、制作時期を記したものはありませんが、塚原晃「田善とテンセン-亜欧堂系銅版江戸名所図における表現技法上の諸問題-」『神戸市立博物館研究紀要第24号』（2008年３月刊行）によれば、田善の作品群の中でも基準作である文化11年（1814）の≪陸奥国石川郡大隈滝芭蕉翁碑之圖≫に通じる表現を認められることから、文化年間の作品と考えられます。

当館での亜欧堂田善の作品の所蔵はわずか１点です。本資料は台紙に貼ってはあるものの、本紙の虫損が少なく良好な状態であり貴重です。

さらに常設展示「江戸の美」のコーナー、そして、浅草寺のにぎわいを描くことから「江戸の四季と盛り場」のコーナーで、また、西洋銅版画の技術を取り入れているということから「文化都市江戸」のコーナーでの展示が可能で、幅広い活用が見込まれます。

説明は以上でございます。

矢中文化施設担当課長代理：今の御説明につきまして、何か御質問、御意見等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、評価方法につきまして、御説明をさせていただきます。

この後、実際の資料の実見の後、評価表に金額を記載いただき、御署名をいただきたいと思います。

評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの価格の平均値を委員会としての評価額といたします。

何か御質問、御意見などはございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、早速資料の実見に移りたいと思います。御移動のほうをお願いいたします。

資料に関する個別の御質問につきましては、学芸員のほうにお尋ねください。よろしくお願いいたします。

（委員離席）

（資料実見）

（委員着席）

矢中文化施設担当課長代理：ありがとうございました。

それでは、議事を再開させていただきます。

資料を実見いただきまして、何か御意見、御質問等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

質問等がございませんようでしたら、お手元に評価表をお配りしているかと思いますので、評価表に価格評価と御署名のほうをお願いいたします。なお、金額は消費税込みの金額での記載をお願いしております。よろしくお願いいたします。

記入はペンでお願いをいたします。

（評価票記入）

矢中文化施設担当課長代理：御記入がお済みになった方につきましては、係のものが確認いたしますのでお声がけください。確認が終わりましたら、御退席いただいて結構です。

本日はありがとうございました。

午後３時26分閉会

以上